

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 9 年 1 月 調査結果 - -

(平成 1 9 年 2 月 1 日)

調査期間：平成 1 9 年 1 月 1 9 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 8 9 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 0 製造業 6 2 2 卸売業 2 3 4
小売業 7 3 9 サービス業 6 1 4

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

仕入単価DIは改善するも業況DIは2カ月連続悪化、 2.8ポイント

1月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（25.2）よりマイナス幅が2.8ポイント拡大して28.0となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

産業別の業況DIは、全業種でマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、売上増加、消費回復、来店者数増加、仕入コスト減少、先行き期待という声が寄せられている一方、公共工事や来店者数の減少、消費の低迷など業況低迷、仕入コストの増加による採算悪化、取引先の廃業による顧客減少の影響、貸出金利引き上げへの懸念を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「市町村合併や北関東自動車道関連の工事が増加しており、一時的であるかもしれないが、業況は好転している」（土木工事）との声がある一方、「他の産業では景気回復との声が聞かれるが、公共工事削減の影響を受けている建設業は一向に良いとは感じられない」（建築工事）、「依然として続く公共事業や民間工事の減少により、中小零細規模の下請業者における先行きの見通しは明るくない」（一般工事）との声も寄せられている。

【製造業】では、「中国やインド、パキスタン向けの輸出増加により受注が増加傾向にあるとともに、円安で採算も好転している」（繊維機械製造）との声がある一方、「不二家の期限切れ原料使用問題の影響が広がることを懸念している」（パン・菓子製造）とのコメントのほか、「仕入コスト上昇により、売上が伸びても採算が好転しないとともに、今後の金利動向が懸念材料となっている」（金属加工機械製造）と、仕入コスト上昇による影響と貸出金利引き上げへの懸念を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「前年同月は豪雪により来店者数が少なかったが、今年は暖冬で降雪量が少なく自動車が動きやすいためか来店者数が増加した」（衣服・日用品卸売）との声がある一方、「年初は人出も多く売上が伸びたが、仕事始めが過ぎた頃から低迷した昨年同時期と同じ状態に戻ってしまった」（農畜産水産物卸売）とのコメントのほか、「顧客である酒販店が相次いで廃業しており、その影響で業況が悪化したと感じている」（食料・飲料卸売）との声も寄せられている。

【小売業】では、「今年は雪が少ないために来店者数が増加しており、冬物のクリアランスセールの上上も好調」（百貨店）との声がある一方で、「初売りは好調であったが、4日以降の売上は前年同月を下回っており、特に衣料品は前年同月比3%減を見込んでいる」（百貨店）、「暖冬の影響で冬物衣類や暖房設備の売上が少なく新年度向けの学校用品も地元で購入する消費者は少ないと予想」（商店街）と、暖冬による冬物商品の売上低迷と先行き不安を訴える声も寄せられている。

【サービス業】では、「例年、1月はあまり良くない月だが、今年は暖冬と晴天により来店者数が予想を上回った」（喫茶店）、「原油価格下落の影響で軽油価格も値下げ傾向に入りつつある」（運送業）との声がある一方で、「暖冬によりスキー客の宿泊が激減している」（旅館）とのコメントも寄せられている。また、「鳥インフルエンザやノロウィルスの発生など、飲食店にとっては打撃となる出来事が相次いで起こっており、不安な状況が続いている」（食堂・レストラン）と、食中毒等の流行による影響を訴える声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が3.9ポイント拡大して21.5となり、3カ月連続で拡大した。産業別にみると、DI値はサービスでマイナス幅が縮小したものの、ほかの4業種で拡大した。

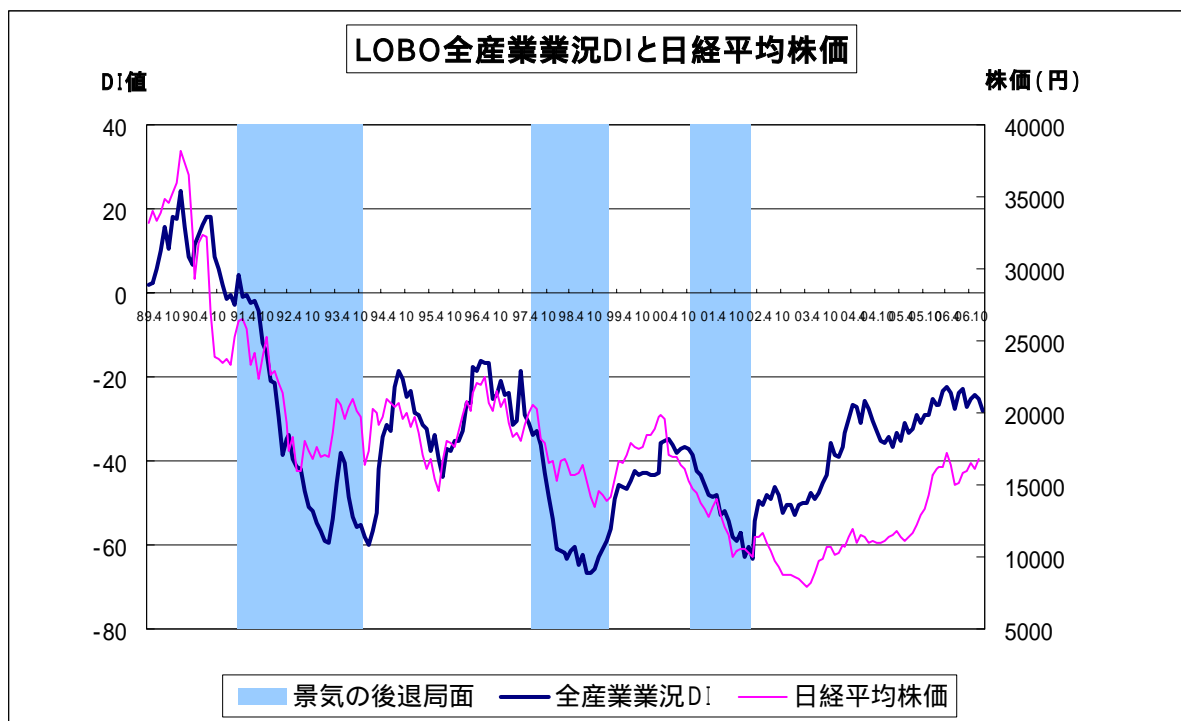
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が0.7ポイント拡大して26.3となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、サービスで縮小したものの、他の3業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が2.0ポイント強まって19.6となり、2カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感卸売で弱まったものの、他の4業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が4.2ポイント弱まって21.8となり、2カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値の上昇超感全業種で弱まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、不足超感から過剰超感に転じた。産業別にみると、DI値は建設、卸売で過剰超感が強まり、他の3業種で不足超感が弱まった。

向こう3カ月(2月~4月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が23.9と、昨年同時期の先行き見通し(21.3)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

1月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 25.2 ）よりマイナス幅が2.8ポイント拡大して 28.0 となり、2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

産業別にみると、全業種でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 23.9 と、昨年同時期の先行き見通し（ 21.3 ）に比べて悪化している。

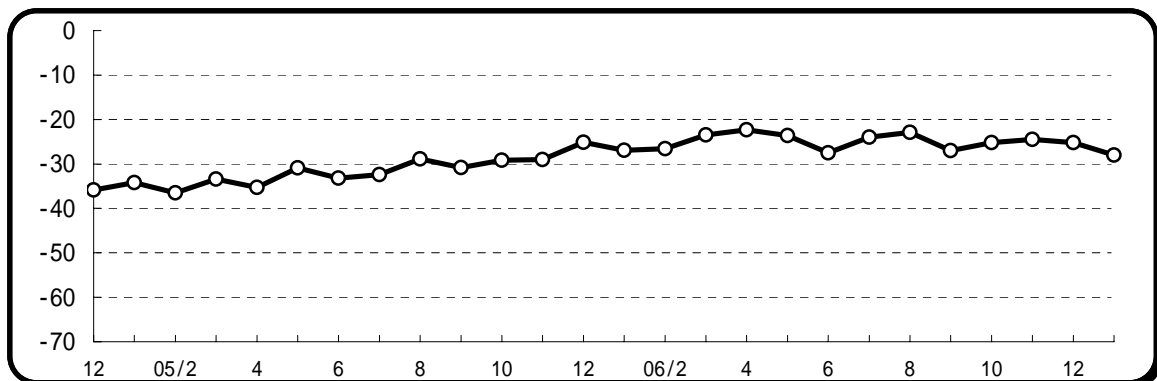
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売とサービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 8月	9月	10月	11月	12月	19年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	22.9	27.0	25.2	24.5	25.2	28.0	23.9 (21.3)
建設	34.8	43.1	38.1	39.6	34.4	40.4	38.3 (31.1)
製造	12.8	14.3	13.4	11.3	15.2	18.1	17.0 (9.5)
卸売	30.5	32.9	34.4	36.6	31.3	31.9	25.2 (25.5)
小売	19.7	22.0	23.1	22.8	25.6	28.7	21.6 (20.6)
サービス	26.7	33.3	28.1	25.7	27.0	28.1	24.2 (26.6)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年1月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が3.9ポイント拡大して21.5となり、3カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値はサービスでマイナス幅が縮小したものの、他の4業種で拡大した。

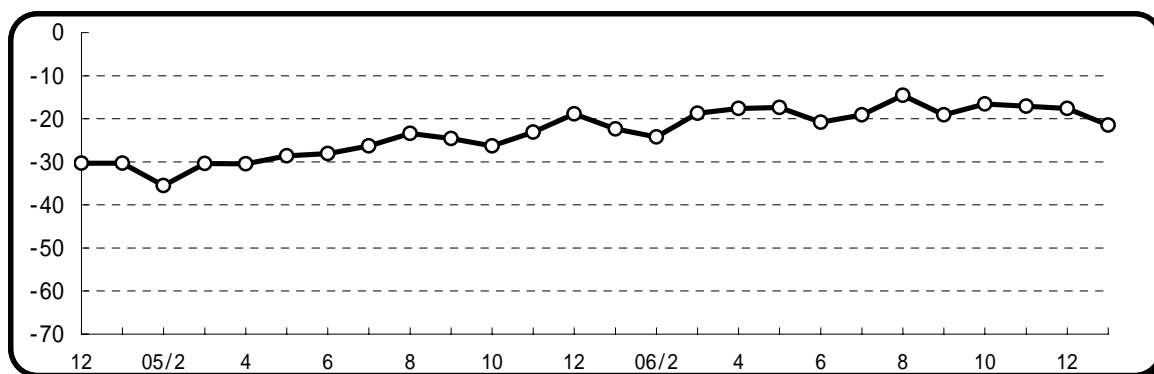
向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が16.6と、昨年同時期の先行き見通し(17.5)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、製造でマイナス幅が拡大しているものの、他の4業種で縮小している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年 8月	9月	10月	11月	12月	19年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	14.6	19.1	16.6	17.1	17.6	21.5	16.6 (17.5)
建設	28.9	34.4	29.6	32.4	27.3	29.7	30.2 (32.2)
製造	3.7	4.8	1.2	2.9	4.2	8.9	7.6 (4.5)
卸売	19.5	20.9	22.9	30.7	22.5	29.4	15.1 (17.8)
小売	14.9	18.3	17.0	20.7	19.5	26.6	16.0 (18.9)
サービス	14.9	23.7	23.8	18.3	20.9	20.0	18.5 (20.1)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.7ポイント拡大して26.3となり、2カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、サービスで縮小したものの、他の3業種で拡大した。

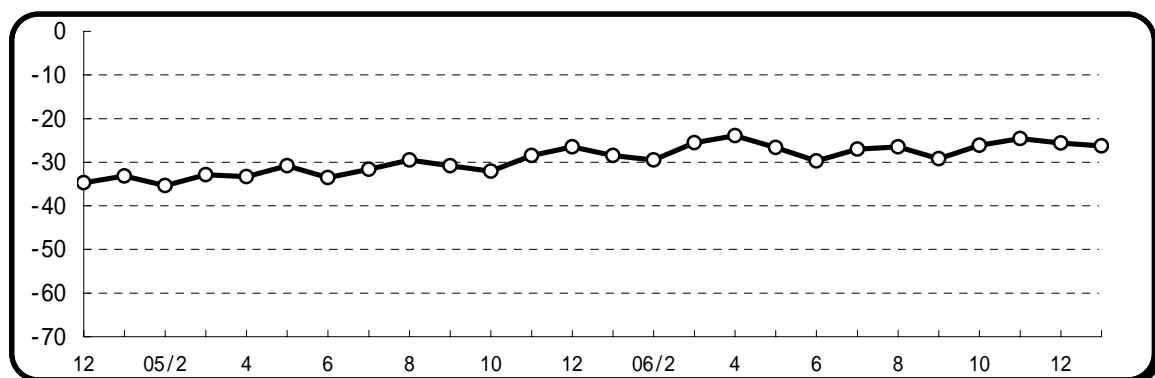
向こう3カ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が20.5と、昨年同時期の先行き見通し(20.4)に比べてわずかながら悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、小売、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年 8月	9月	10月	11月	12月	19年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	26.5	29.2	26.1	24.6	25.6	26.3	20.5 (20.4)
建設	39.8	45.2	42.0	43.8	43.0	41.4	35.5 (34.1)
製造	23.6	25.9	21.7	16.2	18.8	20.4	17.0 (15.2)
卸売	25.6	22.8	29.3	29.4	30.6	31.3	20.8 (14.0)
小売	18.5	20.6	18.7	19.1	18.5	24.1	16.0 (18.3)
サービス	31.3	34.9	27.8	25.5	27.8	23.6	19.9 (22.3)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 8月	9月	10月	11月	12月	19年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	16.9	18.5	19.2	16.6	17.6	19.6	17.6 (17.1)
建設	27.6	30.3	30.8	27.3	29.5	30.5	31.9 (28.8)
製造	11.8	13.3	15.2	12.7	13.9	14.0	12.4 (13.9)
卸売	14.6	11.4	18.2	14.5	19.3	18.5	17.7 (11.4)
小売	13.3	14.4	16.2	12.5	13.6	19.6	14.4 (13.9)
サービス	20.3	23.7	18.7	18.9	17.1	18.4	17.7 (19.0)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月連続で強まった。産業別にみると、卸売で悪化超感が弱まったものの、他の4業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、製造、サービスで悪化超感が弱まり、他の3業種では強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 8月	9月	10月	11月	12月	19年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	31.2	30.0	27.1	24.4	26.0	21.8	16.0 (17.8)
建設	42.0	35.1	34.2	35.6	38.0	34.1	22.4 (23.5)
製造	45.6	47.6	40.7	41.4	42.9	40.0	26.3 (26.3)
卸売	36.0	36.7	34.4	24.2	27.5	15.0	19.5 (15.9)
小売	16.0	14.8	12.7	10.9	8.7	7.5	8.3 (9.2)
サービス	25.5	24.4	23.0	16.3	20.4	15.0	9.2 (16.3)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が2カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、全業種で上昇超感が弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が弱まる見通し。産業別にみると、卸売で上昇超感が強まる一方、製造で横ばい、他の3産業で上昇超感が弱まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	18年 8月	9月	10月	11月	12月	19年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	0.5	1.1	0.2	0.4	2.7	0.2	2.4 (2.0)
建設	17.1	16.4	14.7	13.4	12.9	14.7	14.2 (11.4)
製造	3.2	0.2	1.9	3.2	3.9	0.0	5.5 (8.4)
卸売	7.3	5.7	3.2	3.3	1.3	5.0	10.1 (5.9)
小売	5.4	4.7	5.9	5.5	8.2	6.0	3.1 (5.1)
サービス	2.0	2.5	1.2	1.7	7.0	3.4	4.8 (3.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

- 【前年同月比 D I】全産業合計は不足超感から過剰超感へ転じた。産業別にみると、建設、卸売で過剰超感が強まり、他の3業種で不足超感が弱まった。
- 【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が強まる見通し。産業別にみると、製造で過剰超感が弱まり、サービスで不足超感が強まる一方、建設、卸売で過剰超感が強まり、小売で不足超感が弱まる見通し。

【平成19年1月の景気キーワード】

回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、来店者数増加、先行き期待という声が寄せられている。「昨年は豪雪のために本業の管工事を中断せざるを得なくなり売上がなかったが、今年は暖冬で雪がなく作業が順調に進み売上が伸びている」(秋田・管工事)「依然として高水準で安定した操業が続いており、心配していた豪雪による物流網への影響もなく、一層安定感を増している」(松任・金属加工機械製造)とのコメントが寄せられている。また、「年初を筆頭に今月は売上・来店者数ともに好調に推移している」(甲府・百貨店)「今後、冬物や防寒着のバーゲンで売上は増加するのではないか」(観音寺・商店街)との声のほか、「年が明けてから来店者数が増えており、顧客の来店頻度が高くなっている感がある」(各務原・理容)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き公共工事や来店者数の減少、消費の低迷など業況低迷、仕入コストの増加による採算悪化、廃業発生の可能性の高まりを訴える声も寄せられている。建設、製造からは「公共工事の減少と競争激化、仕入コスト上昇により、建設業界は大変厳しい環境に置かれており、今後、中小企業を中心に廃業が発生する可能性が高い」(静岡・一般工事)「売上について、数は確保できていてもコストの増加が続き採算が低迷していることから、業況は依然として厳しい」(半田・織物製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからは、「売上高は前年同月比で僅かに増加したが、先行きは楽観できない」(土佐清水・食料・飲料卸売)「各店が新年大売出しを実施するも、来店者数は少なく売上も伸びなかった」(土別・商店街)「現在の業況は最悪だった昨年から改善しておらず、廃業する同業者も多い」(野田・すし店)とのコメントが寄せられている。

暖冬の影響・効果

また、暖冬の影響による業況低迷を訴える声が寄せられている一方、来店者数増加、経費削減など暖冬の影響を挙げる声も聞かれている。建設、製造、卸売からは、「公共事業が減少する中で除雪作業は数少ない仕事だが、今年は降雪が少ないために除雪作業すらもない」(長井・一般工事)「暖冬の影響による受注減少の影響は大きく、春夏物の受注が増加する時期が待ち遠しい」(酒田・織物外衣製造)「暖冬と降雪量の減少で衣料や靴などの冬物商品の動きが低調」(帯広・各種商品卸売)との声が寄せられている。一方、引き続き暖冬の影響で冬物商品の売上が鈍いとのコメントが寄せられている小売からは、「暖冬により除雪費用や暖房用の重油等の仕入コストが減少している」(北上・百貨店)との声も聞かれている。また、サービスからは、「暖冬で雪が少ないため、人の動きが活発になるのではと期待している」(新井・食堂・レストラン)といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
18年 11月	回復への動き	悪化への懸念	暖冬予想の影響
12月	回復への動き	悪化への懸念	冬物の売上低迷
19年 1月	回復への動き	悪化への懸念	暖冬の影響・効果

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>業況・売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月連続で縮小した。「市町村合併や北関東自動車道関連の工事が増加しており、一時的であるかもしれないが、業況は好転している」(土木工事)との声がある一方、「他の産業では景気回復との声が聞かれるが、公共工事削減の影響を受けている建設業は一向に良いとは感じられない」(建築工事)「依然として続く公共事業や民間工事の減少により、中小零細規模の下請業者における先行きの見通しは明るくない」(一般工事)「公共工事は発注があっても小規模に留まり、新たな設備投資や新規採用の意欲が高まるほどではない」(土木工事)といった声も寄せられている。</p>
製 造	<p>業況・売上・採算D Iともに2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「少しずつ明るい兆しが見え始めている」(他金属製品製造)「中国やインド、パキスタン向けの輸出増加により受注が増加傾向にあるとともに、円安で採算も好転している」(繊維機械製造)との声がある一方、「不二家の期限切れ原料使用問題の影響が広がることを懸念している」(パン・菓子製造)「仕入コスト上昇により、売上が伸びても採算が好転しないとともに、今後の金利動向が懸念材料となっている」(金属加工機械製造)といった声が寄せられている。</p>
卸 売	<p>業況・売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「前年同月は豪雪により来店者数が少なかったが、今年は暖冬で降雪量が少なく自動車が動きやすいため来店者数が増加した」(衣服・日用品卸売)との声がある一方、「年初は人出も多く売上が伸びたが、仕事始めが過ぎた頃から低迷した昨年同時期と同じ状態に戻ってしまった」(農畜産水産物卸売)「顧客である酒販店が相次いで廃業しており、その影響で業況が悪化したと感じている」(食料・飲料卸売)といった声が寄せられている。</p>
小 売	<p>業況D Iは2カ月連続、売上・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「暖冬の影響で冬物の売上は振るわないが、それをカバーする形で春物が売れ始めている」(商店街)「今年は雪が少ないために来店者数が増加しており、冬物のクリアランスセールの上上も好調」(百貨店)との声がある一方、「暖冬の影響で冬物衣類や暖房設備の売上が少なく新年度向けの学校用品も地元で購入する消費者は少ないと予想」(商店街)「暖冬による冬物商品の販売不調に加え、今後見込まれる家計の負担増により消費意欲が減退している気配を感じる」(商店街)「初売りは好調であったが、1月4日以降の売上は前年同月を下回っており、特に衣料品は前年同月比3%減を見込んでいる」(百貨店)といった声が寄せられている。</p>
サービス	<p>業況D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大し、売上・採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「例年、1月はあまり良くない月だが、今年は暖冬と晴天により来店者数が予想を上回った」(喫茶店)「前年同月と比較して客単価は下落したものの、販売数量が伸びたことで前年並みの売上額を確保できた」(他の一般飲食店)「原油価格下落の影響で軽油価格も値下げ傾向に入りつつある」(運送業)との声がある一方、「暖冬によりスキー客の宿泊が激減している」(旅館)「鳥インフルエンザやノロウィルスの発生など、飲食店にとっては打撃となる出来事が相次いで起こっており、不安な状況が続いている」(食堂・レストラン)「業況は良くなったと思うと翌月は悪化するといった動きを見せており、上昇傾向に入ったとはまるで感じられない」(他の一般飲食店)といった声が寄せられている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東海、九州でマイナス幅が縮小したものの、他の7ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は2カ月連続でマイナス幅が拡大した。

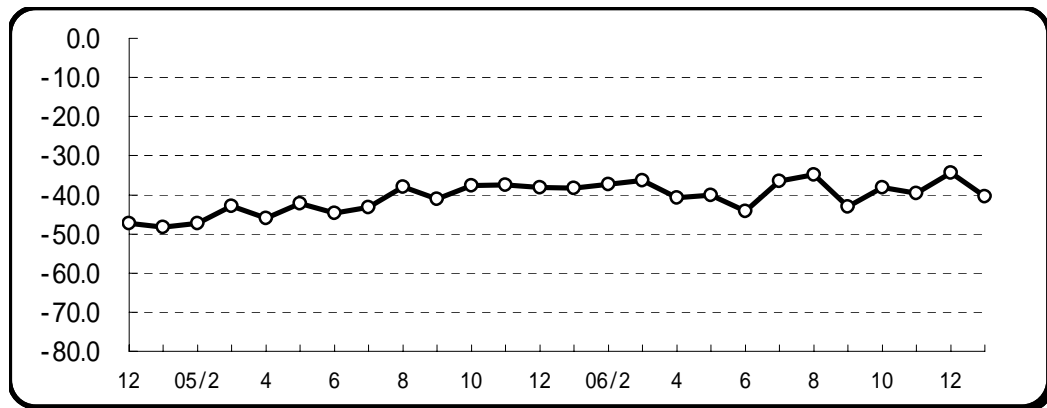
ブロック別の向こう3カ月(2月~4月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、東北、北陸信越、九州で改善したものの、他の6ブロックで悪化した。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

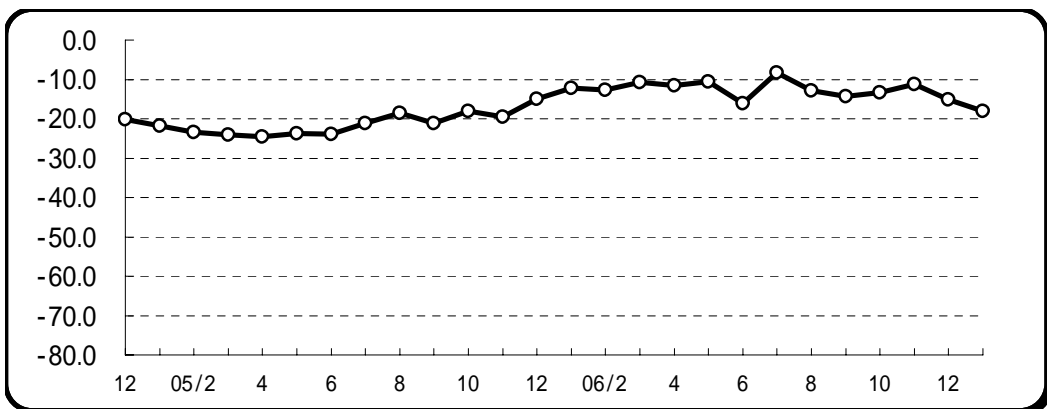
	18年 8月	9月	10月	11月	12月	19年 1月	先行き見通し 2~4月
全 国	22.9	27.0	25.2	24.5	25.2	28.0	23.9 (21.3)
北海道	30.6	28.6	30.2	26.4	32.7	39.8	39.1 (25.9)
東 北	24.8	33.6	27.7	24.5	27.4	29.3	27.9 (34.0)
北陸信越	13.7	18.1	10.6	16.5	11.7	17.0	16.5 (22.6)
関 東	15.2	24.3	25.2	23.1	23.4	25.2	18.1 (15.5)
東 海	24.2	22.5	20.6	15.6	22.4	19.0	20.7 (11.1)
近 畿	29.4	29.4	24.9	34.4	26.4	33.1	29.1 (25.0)
中 国	25.9	34.3	37.8	29.4	26.5	32.1	32.1 (27.3)
四 国	35.7	36.9	35.3	32.1	38.6	40.0	28.6 (26.4)
九 州	20.7	24.2	22.8	19.8	27.0	25.0	16.7 (16.8)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

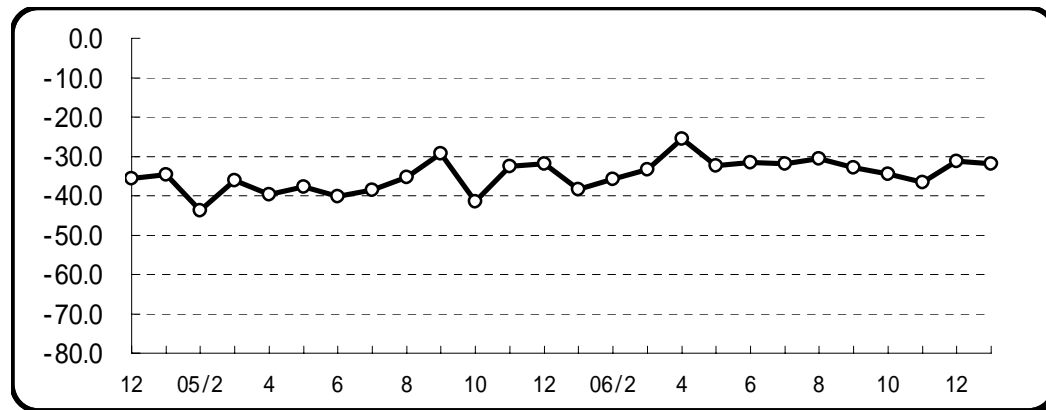
建設業



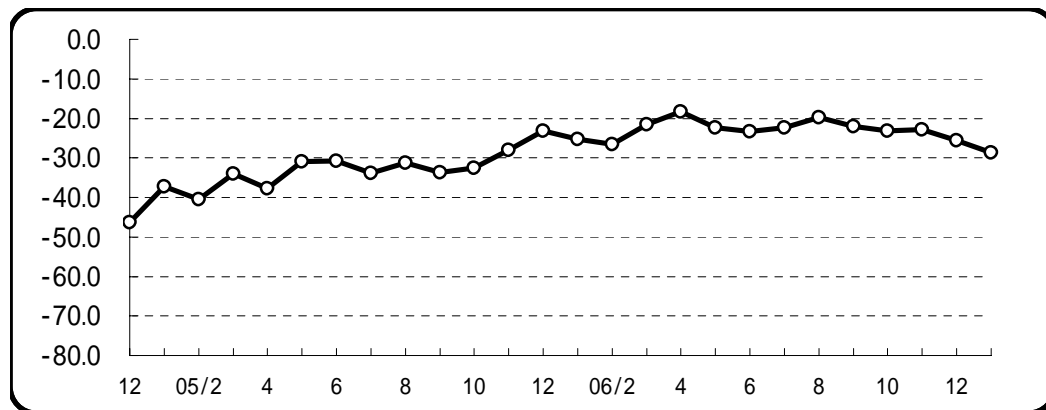
製造業



卸売業



小売業



サービス業

